



長久手地域担当  
北部営農センター  
長谷川 勇

長久手地域でお茶の栽培に取り組む近藤浩光さん。冬の間は寒さを防ぐ為に放任栽培で、3月中旬から整枝作業が始まり、ゴールデンウィーク明けから収穫作業に入ります。

春の新芽が  
出た頃の様子



冬の放任栽培の  
頃の様子



お茶はチャミノガ・オオミノガ(ミノムシ)など様々な害虫被害に遭います。近藤さんが一番困っているのは、チャトゲコナジラミの被害です。多発し吸汁加害されると樹勢が低下し新芽の生育が悪くなってしまいます。また、幼虫が排泄する甘露によってすす病を誘発し、葉が黒色に変色しそうが品質を低下させます。

新剤であるグレーシア乳剤は、チャトゲコナジラミにも適用があるため、散布を提案しました。

◀チャトゲコナジラミ(農業電子図書より)

近藤さんのお茶は、長久手グリーンセンターを中心に、各産直所へ出荷をしています。近藤さんのお茶を求めて遠方から多くのお客様にお買い上げいただいております。地元のお茶を、ぜひご賞味下さい。

